記者会見概要

【日　時】　　平成 23 年 10 月 12 日（水）18：15～18：55
【場　所】　　都道府県会館 6 階　知事室
【出席者】　　山田全国知事会会長（京都府知事）

（山田全国知事会会長）

特に案件があってというわけではないが、長い間記者会見を開いておりませんでしたので。野田政権が発足してこの間、いくつか明らかになった点があって、我々はやはりきちんと整理していかなければならない。何が明確になったか。第一点は、地域主権に対する後退姿勢が、各閣僚の中で非常に明確になっている。この間の地域主権に対する各閣僚の発言や、アクションプラン推進委員会の中での発言を見ても全く先祖返りしてしまっている。唯一川端総務大臣だけが孤軍奮闘していただいている状況になってしまっているけれども、そもそも地域主権に対する各大臣、副大臣、政務官の意識が全くなくなってしまっている。これは、今まで閣議決定までしてやってきたことを考えると、本当に戻ってしまった、先祖返りしてしまったということを強く指摘したい。これが第一点です。

もう一点は、是非とも地域主権に対して総理ご自身から、きちんとしたメッセージを発信してもらいたい。地域主権に対して引き続き取り組むということであったが、引き続きという状況ではない。全然、今までの議論の経過を踏まえていない。各省言いなりの発言が副大臣、政務官から出ている。このままでは本当に地方は失望せざるを得ない。是非とも総理から、もう一回、地域主権は我々の一丁目一番地だ、やっていくんだというメッセージを出していただくよう強く求めたい。所信表明をされた２日後に総理にお会いし、地域主権に対してこれは後退ではないですかと申し上げたときには、言わずもがなだ、やるんだという話でしたが、残念ながら総理のそういう話は、各政務三役に伝わっていない。今、一所懸命、川端総務大臣がもう一回締め直しをやっていただいているけれども、これはやはり総理が先頭に立って地域主権というものをやっていかなければいけないということを宣言してもらいたい。

その地域主権が後退するということであれば、私は、国民に負担を求める立場としても、地域は納得できませんよということをもう一度申し上げたい。これから国民の皆さんに負担を求めるというのであれば、国家公務員の人件費２割削減、出先機関の廃止などまず国は身を切る覚悟が必要。まず、国の出先機関の問題や国家公務員人件費の問題について地域主権を進めるんだということを総理からメッセージを出さなければ、国民も地域も納得しないと思います。

いよいよ、来週ぐらいには新しい総理のもとで、国と地方の協議の場が開かれると思いますので、それに対して、私どももそのような立場で臨んでまいりたいと思います。

もう一点。知事会では、円高対策プロジェクトチームを立ち上げて、積極的な、例えば国債の日銀引き受けも含めて円高対策を講じなければ地域は駄目になるということをこの間申し上げてきました。しかし、円高は全く変わらない状況です。これは、やはり政府の無策と言わざるを得ない。このままでいくと、地域、地方は疲弊してしまう。いくらなんでもこの円高のレベルはひどすぎる。政府は円高対策を講じると言うけれども、一向に円高の状況は変わらないので、このままだと地方は壊死してしまう。円高対策について本当に思いきった対策を講じていただきたい。

これが、これから年末に向けての知事会の一番大きな行動になります。地域で次から次へと生産拠点を中国、東南アジアへ移すという話がどんどん出てきている。こうした地域の現状を踏まえて、口だけではなくとにかく効果的な、実現性のある円高対策を講じていただきたい。

知事会は既に思い切った提言をしています。こういう提言についてもきちんと見ていただいて何とか、いち早く円高対策を講じていただきたい。これは我々の年末に向けての大きな運動になります。何せ来年の財政対策とか何だとか言う前に、我々の地域自身が立ち行かなくなってしまったらどうしようもないですよということを申し上げたいと思います。それに対する危機感が感じられない。円高は本当に我々の方が危機感を持っています。この 2 点だけを申し上げて、後は質問があれば受け付けます。

＜質疑応答＞

（記者）

先日のアクションプラン推進委員会であのような形で出てきたが、今後 26 年度の移管に向けて、川端大臣はできる、やるとおっしゃっていますが、スケジュールもかなり遅れるのではないかと懸念されている。その辺り、知事会、地方側として今後どのように政府にプッシュしていくのか。どのように行動していかれるのか、教えて下さい。

（山田全国知事会会長）

今も言いましたように、もう一回総理から締めていただかないといけません。政務三役、副大臣クラスの方の発言がビックリしてしまうような話が多いんです。民主党政権ができたときには、地域主権は一丁目一番地だと声高に主張され、色々と問題はあったにしても、各政務三役が政治主導で我々が推し進めていくということで先頭に立たれていた。それが今度は反動が来てしまって、やはり政治主導ではうまく行かないから、官僚の言うことも聞こうということになったのだと思うのですが、聞くだけではなくて完全に飲み込まれてしまって、全く各省の言いなりになってしまった。

地域主権は各省の言い分を聞いていたら何もできないんです。各省が切られる話ですから、各省は前から抵抗していた。それは間違いない。その気持ちはわかります。自分

たちの組織を潰されるわけだから、抵抗している。それでも政治主導でやろうということで、民主党がマニフェストに謳って進んでいこうということでやっていたわけです。進めようとしたんだけれども、この前のアクションプラン推進委員会では、関西広域連合について、何らそういう意識のない発言が出てきてしまって、総務大臣のみが孤軍奮闘している状況なので、これは総理の出番だと思います。総理が出て行かないと、川端大臣も進めていけないのではないか、地域主権が遅れてしまうのではないかと危惧します。

我々としては、国と地方の協議の場や、アクションプラン推進委員会、地域主権戦略会議等を通じて申し入れていきたいし、関西広域連合をはじめとした各機関も締め直していきます。ハローワークの問題も同様です。霞ヶ関の人たちも、少しは今までの経緯というものを考えてもらいたい。とにかくビックリするような話になってしまいました。そういうことを通じてもう一回締め直しを行います。

（記者）

もう一点、先ほど国と地方の協議の場が来週くらいに行われるということでしたが、テーマはどのようなことでしょうか。

（山田全国知事会会長）

やはり補正予算とか概算要求を踏まえての地方財政対策というのがメインになってくると思うし、おそらく、政府側からもそこが出てくると思う。地方増税の話も入ってきていますから、財政議論が今回のメインになってくるのではないかと思います。

（記者）

あと一点、子ども手当についてですが、昨年は１１月くらいに厚労省と非公式の協議の場があって、それでも遅いと言われて遅れた話だと思いますが

（山田全国知事会会長）

分科会の設置に向かって準備を進めています。

（記者）

もう今月？

（山田全国知事会会長）

はっきりとは言えない。その前に非公式の会議があるかもしれないし。とにかく、分科会の設置は決まっています。

向こうにもスケジュール感を持ってやってもらわないと。それはやってくれると思い

ますよ。

（記者）
国と地方の協議についてスケジュールは内々には来ているのですか。

（山田全国知事会会長）
内々にはスケジュール調整に入っているが、正式な日は決まっていない。

（記者）
来週中か。

（山田全国知事会会長）
確定的なことは言えないが準備は進めている。

（記者）
地方自治法改正プロジェクトチームの会議を先ほどまで行っていたということですが、これはどのような目的で今回始められたのでしょうか。今まで総務省側と地方六団体の主張は平行線を辿っていると思うのですが。

（山田全国知事会会長）
我々としては平行線を辿っているというよりは、自治法改正の問題について細部が詰まっていませんねという話なんです。今日も議論していましたが、専門的な話で申し訳ないが、例えば、専決処分。副知事や副市長を除きますというのはすごくわかりやすいが、やった専決処分については必要な措置を講じなさいと書いてある。必要な措置って何と言われたらまともな返答がない。どれが必要な措置なのか訳がわからない。そうであれば、必要な措置とは何かを明確にしていかなければいけない。
また、住民投票についても、なぜ公の施設なのか。おそらく、今、公の施設に関してそれほど問題にはなっていない。地方からすると一番問題になっているのは合併、配置分合などである。それから、ダムはどうするかとか、庁舎はどこに造るのかとか。庁舎などが除かれてしまって、なぜ公の施設なのかということについて、今まで明確な返答がなかったわけです。まずやれるところからと言われても、なぜ公の施設ならやれるのかと聞くと、もう話が来ない。それではなぜ公の施設なのですかと言われても我々は説明できない。それは条例で書けばいいんだからと言われても、なぜ条例で公の施設だけを対象としなければならないのか。合併を対象としてはいけないのかと聞くと回答ができない。それなら、もう少しきちんと議論しましょうよということです。解職請求についても、なぜ１／１０なんですかと。諸外国に例があるからと言われても、どのような

形でやっていくのか議論ができていない。

だから、今日は、国に対してそういう議論をきちんと行っていく場を設けて、我々の疑問点をぶつけていくため集まりました。この前は、地方の意見を十分聞かないで出すと言われたから反対したわけです。全体については、必ずしも反対ではなくて、そうした議論を含めてやっていきましょうと。地方制度調査会も作っていただいて、委員も出ていますから。問題点のところをしっかりと詰めていきましょうということで、今日は、どこを指摘して、それに対してどのような形でやっていくのかということを確認しておりました。

だから、絶対反対などということではなく、これから真意を問いただして、その中で良いものができるのであればその方がいいに決まっているので、そういうことをやっていきたいなということで議論していました。

（記者）

地方制度調査会は、今年いっぱい地方自治法改正の議論をしていくとしているようだが、知事会のプロジェクトチームも年内までの設置ということになるのでしょうか。

（山田全国知事会会長）

地方制度調査会の議論に合わせて動きます。岡山県の石井知事が地方制度調査会の委員として入っているので、それをサポートするチームということにります。

（記者）

大都市制度の話は、知事会のプロジェクトチームではやらないのでしょうか。

（山田全国知事会会長）

大都市制度の話は、今、知事会のプロジェクトチームでは話し合っていない。臨時委員として指定都市だけ入っている。本当にそれでいいのかなと思う。大都市制度問題を議論するのであれば、大都市の影響を受ける都道府県も臨時委員として本来は入るべきではないかということをこれから議論していかなければいけない。

（記者）

子ども手当に代わる新制度の話で、今日の厚労大臣との会合で、尾崎知事は全額国庫負担と主張しているが知事会、あるいは６団体でも全額国庫負担という主張か。

（山田全国知事会会長）

尾崎知事は、原則論を言ってらっしゃるのだと思う。サービス給付と現金給付は分けて考えるべきだということを言っていくというのが基本だと思います。実際問題として、

その後どういう制度を作るんだ、という話になってくるので、原則論から入っているのだと思います。

（記者）
実際には、分科会という話もあったが、タイミングとしては３党協議を受けてということになるのか、それとも、待たずに、生煮えでも開けというのか。

（山田全国知事会会長）
基本的には、生煮えでも開いてもらいたい。もともと、国と地方の協議の場というのは、企画立案段階から協議を重ねることによって、より良いものを作ろうということですから、出来てしまってから協議されても困るので。それは、この前からずっと国に対して言っていることですから。単にイエスかノーか迫れられて、ノーでもいくよ、みたいな話だったら、なんのための協議かわからない。地方の意見が入ったほうが、与野党協議だってスムーズにいくと思いますよ、ということを言っているのですが、なかなか党内事情もあって難しいようです。

（記者）
１９日に第一回会合がある、グランドデザイン構想会議というのは、どのような成果を期待するものなのか。

（山田全国知事会会長）
これは、秋田の知事会議で設立を決めたのですが、その時には３点挙げておりまして、一つは多極型の国土構造について、知事会から提言をしていこうという点と、国土軸が太平洋側に偏っているけれども、日本海側にも国土軸を作っていくべきではないかという点、それから地方公共団体のあり方。今、特区制度が出来ているが、単に特区だけでいいんだろうか、もう一段階上を目指した地方公共団体を作っていかなくてはいけないのではないかという点について、議論をしていこうということです。

（記者）
成果物としては、国に提言をしていくのだろうが、かなり具体的なものを想定しているのか。

（山田全国知事会会長）
具体的なものを出したいと思っている。これから議論を始めるので、その前に言うのもなんだが、国自身が、明確な国土ビジョンを出せなくなってしまったという気がする。この時代において、分権を進めていく上でも、国家ビジョンというものが提供され、我々

も地域のあり方を考えていくというのが筋なんですね。その筋論の部分が、国土庁もなくなり、新しい総合計画だってあまり知られていない。

今回、震災で明らかになった一極集中の問題、どうすれば災害に強い分散型の国土が作れるのか。一つの軸でやっていくのではなく、日本海側国土軸の強化などを進めるべきではないか。特区の導入も求めているがそればかりではなくて、そこに含まれる本質論から次の地方公共団体のあり方を議論していかなくてはならない。次の段階の、地方公共団体のあり方を議論し、打ち出していかなければいけないと思います。

（記者）

大規模災害の対応として、知事会のカバー県といった対応が必ずしもうまくいったわけではないということで反省をし、埼玉県知事を中心に新たなブラッシュアップをされていると思うのですが、進捗状況はどうか。

（山田全国知事会会長）

基本的な構想は出来ましたので、次は、それを具体的に動かす組織に入ろうとしています。知事会の組織のあり方検討ＰＴにおいて、徳島の飯泉知事がリーダーになり、上田知事が示したものに沿って、具体的な動かし方の議論を始めています。

（記者）

復興庁の設置法案の中身についてどう考えるか。

（山田全国知事会会長）

正直言って、もっと思い切ったことがあってもいいのではないかという感じがする。やはり、既存の組織に乗っかるような雰囲気になってしまわないかなと思うが、まだ論評すべき時点ではないと思います。ただ、各省の３役の皆さんの先祖返り的な発言を見ていると、既得権益が全面に出てしまっている気がするので、既得権益を白紙に戻して、なにが正しいのかという議論を、すべての面でしてもらいたいと思います。

ある面で、権限を集中したものを作っていかなければならないとは思っているが、それが既存組織の温存に使われてしまうような話に持っていこうとするので、もう一回原点に戻ってもらいたい。災害があるから云々の話ではない。災害時に大活躍する警察は都道府県の組織ですよ。それを警察庁で災害に応じて統制している。そういうことでもできるわけですから、そういう組織がなければいけないという話にはなりません。

議論がバックする方向で出てきていることに対しては、総理がもう一回、各省庁に対して明確なメッセージを出し、野田政権として、国民に痛みを求めていくという対応を明確にされているのだったら、まず国の改革もしていくんだということをしっかり明言するべきだと思います。それを求めていきたいと思います。

（記者）
昨日、政府の中央防災会議があって、新しい専門調査会が出来た。今回の東日本大震災を受けて、災害法制全般を見直していこうということですが、地方としてはどうか。

（山田全国知事会会長）
今回の地震のように、市町村自体が機能を失った場合、どうするのかということを法的に詰めるというのはいいと思うが、それを全般に及ぼすのはおかしいです。一義的に対応しなくてはいけないのはやはり市町村。やはり、住民救助が目的ですから。その際は市町村長が一番判断できるわけです。どこが危ないか、どういう事態か、これは都道府県も国の出先機関も判断できる問題ではありません。それを踏まえて、市町村が動かなくなった場合にどうするのか考えないといけない。
しかし、市町村がないことを前提に議論したら、各市町村に国の出先機関を置かなくてはいけなくなってしまう。そういう話ではない、ということをこれからの議論の中で、我々も言わなくてはいけない。実際問題、都道府県や市町村の意見を聴かずに、法律改正ができるとは思っていません。

（記者）
地域主権が後退しているという話をされたが、評価として１００点満点で何点か。

（山田全国知事会会長）
とにかく、点がつけられる状態にしてもらいたいと思います。総務大臣は孤軍奮闘しているが、各省があれだけ後退発言をするのは、総理の意図を見ているのだと思う。本気だということを示してもらわないと大変なことになりますよということを言いたい。それを見て点数をつけないといけない。

（記者）
このままいくと、国民にはどういう悪い影響が出るのか。

（山田全国知事会会長）
我々は効果的な行政をやっていかなければならない。地域主権を進めるには、地域ががんばって国の負担を減らして、国・地方を通じて、簡素で効果的な行政をやっていこうと。それによって無駄をなくし、それでも足りないものは国民負担を求めようという順序の議論だったはず。
この議論をひっくり返すのか。ひっくり返すのなら、きっちりした議論をしていかなければいけない。その辺をうやむやにされてしまっては、選挙で問うた意味がない。交

渉過程の中で変わっていく部分はあるが、一番原点の部分、分権以前に、地方の果たしている役割をぜんぜん理解していない議論まで出てきていて、それを振り付けている人たちがいるというのが問題で、このままいったら大変なことになる。

（記者）

野田総理に、どういう形とタイミングでそういうメッセージを出してもらいたいか。

（山田全国知事会会長）

閣議でも国会でもいいし、各省に対して号令を出してほしい。川端総務大臣が孤軍奮闘しているだけで、各省からは今までの地域主権の議論を顧みない発言が続出しているという今の状況の中で、やはり、総理から各省に対してきちっとしたメッセージを出してもらいたい。

そうでなければ、野田総理の地域主権に対する熱意というものが、根本的に疑われてしまう事態になっていますよ、という危機感を地方はもっていますよということを申し上げたい。民主党にとって、地域主権というのは原点であり、それを忘れた発言は謹んでもらいたいと総理から言っていただきたいと強く求めたいと思います。

以上